

社会教育主事新課程に向けた社会教育実習の内容分析と課題

——社会教育士に求められる資質との関連から——

榊原 博美*

キーワード：社会教育士、社会教育実習、社会教育主事養成、新カリキュラム

2020年4月1日から施行されることとなる「社会教育主事講習等の規定の一部を改正する省令」に基づく社会教育主事養成課程における新カリキュラムを、新設教科を中心として分析したうえで、本学で現行実施している必修の社会教育実習の内容について学生の実習日誌の記述などを新課程履修者に与えられる社会教育士に求められる資質との関連から検討し、今後の課題を提示した。

はじめに

教育委員会の事務局に配置され、社会教育を行うものに専門的技術的な助言と指導を行う社会教育主事の養成について、社会教育主事養成等の改善・充実に関する検討会等の提言を踏まえ、社会教育主事講習及び社会教育主事養成課程の科目の改善を図ることとなり、社会教育主事講習等の規定の一部を改正する省令が公布され、2020年4月1日から施行されることとなった。

本改正では、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る「生涯学習支援論」と、多様な主体と連携・協働を図りながら学習成果を地域課題解決等につなげていくための知識及び技能の習得を図る「社会教育経営論」が新設され、これらを含むすべての科目を習得したものは、新たに「社会教育士」と称することができることとなった。¹⁾

この改正における養成課程に関わる変更の要点として上述2科目の新設に加え、社会教育主事の職務を遂行するための実践的な能力を身につけることができるよう「社会教育実習」1単位が必修化されたことがある。本稿では主に養成課程における新たなカリキュラ

* さかきばら ひろみ 総合政策学部

ムの概要を把握したうえで、とくにこの機に今後の実習必修化に向けた課題を整理するため、社会教育士に求められる資質能力との関連で実習における学生の学びを分析することを目的に論考をすすめる。

本学ではこの改正に先立ち、社会教育実習を社会教育演習とともにすでに必修で設置してきた経緯があり、その成果をふまえることには意義がある。また今後選択必修の社会教育実習Ⅱの設置も視野に入れつつ、新たな課題を見出すことも重要であると考えこの課題を設定した。

1. 社会教育主事養成課程改正の概要

中央教育審議会生涯学習分科会や社会教育主事養成等の改善・充実に関する検討会等の議論において、今後は社会教育主事が地域づくりや人づくりの分野において中核的な役割を担うことの重要性に鑑み、そのための資質や能力を養成することの必要性が指摘されてきた。それにより、社会教育主事講習及び社会教育主事養成課程の改善を図るため2018年2月28日に社会教育主事講習等規定の一部を改正する省令（平成30年文部科学省令第5号）が公布され2020年4月から施行される。

改正の要点として以下の3点が挙げられる。すなわち1点目として、社会教育主事講習において、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る「生涯学習支援論」と、多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決等につなげていくための知識及び技能の習得を図る「社会教育経営論」を新設することである。また、受講者の負担軽減から単位数については従来の9単位が8単位に変更された。

2点目に、社会教育主事養成課程についても講習と同様、「生涯学習支援論」と「社会教育経営論」が新設されるとともに、社会教育主事の職務を遂行するための実践的な能力を身につけられるよう「社会教育実習」の1単位が必修となった。

3点目に、社会教育主事講習の修了書授与者は「社会教育士（講習）」、社会教育主事養成課程の修了者は「社会教育士（養成課程）」と称することができることとなったことがある。

これらのうち、本稿ではとくに養成課程の改正について新カリキュラムにおける新設科目の内容について検討した上で、とくに本学において現行必修で実施している社会教育実習の内容について吟味し、その成果および今後の課題について考察していく。

2. 新カリキュラムにおける新設科目およびその他の科目の内容と特質

養成課程の新カリキュラムにおける新設2科目の内容およびその他の科目について、把握しやすくするため、「目的」「方法」「養成されるべき能力」の項目に分けて一覧表を作成した(表1)。

表1 *重要な個所はゴシック体で示した

	目的	方法	養成されるべき能力
生涯学習支援論	学習者の多様な特性に応じた学習支援 に関する知識及び技能の習得を図ること	学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法、学習プログラムの編成、 参加型学習 の実際とファシリテーション技法等の内容を扱う	人々の力を引き出し、主体的な参画を促す ファシリテーション能力
社会教育経営論	多様な主体と連携・協働 を図りながら、 学習成果を地域課題解決等につなげていく ための知識及び技能の習得を図ること	社会教育計画の企画・立案・実施、PDCA サイクル含む効率的な社会教育事業の展開を図る意義を扱う、 多様な手法による資金調達 について扱う	学校・家庭・地域の連携・協働をはじめ、福祉、環境、地域振興、防災等の行政機関、NPO、大学、企業等の 多様な主体と連携・協働 するための コーディネート能力 や プレゼンテーション能力
社会教育特講	社会教育主事としての幅広い視野、社会的関心を持たせるとともに、専門的内容についての理解を図ること	図書館学・博物館学の専門的内容ほか、環境問題や青少年健全育成など 多岐にわたる現代的課題 (人権教育を除く)を扱う	専門的・発展的能力
実習・課題研究・社会教育演習	社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の 総合的かつ実践的 な定着を図ること	具体の 地域課題 を題材とした社会教育事業の企画・立案等に向けた演習や社会教育施設等における実習	コーディネート能力 、 ファシリテーション能力 、 プレゼンテーション能力 の基礎の習得

〈文科省 HP より筆者作成〉

これらを概観すると、「多様」「連携・協働」「地域」「コーディネート／ファシリテーション／プレゼンテーション」などのキーワードが抽出される。これまでの社会教育主事課程の教科内容に対して「コーディネート／ファシリテーション／プレゼンテーション」能力については改正後の教科において新たに求められる資質²⁾として重要であり、とくにそれらは社会教育演習・実習・課題研究などの教科において実践的に身につけることが求められる。そのなかでも今改正においてそれまで選択科目の1つであった社会教育実習が1単位必修になったことには重要な意味があると思われる。従って上記のような資質の養成がますます実習での学びに期待されることに鑑み、現状本学の養成課程においてすでに

必修科目として位置づけられている社会教育実習の内容について吟味し、新課程における必修1単位としての実習および選択必修の実習Ⅱに向けた課題を整理することには意義があるといえる。次節において検討したい。

3. 本学現行社会教育実習の内容と目的

改正前の現行における本学の社会教育主事課程で必修2単位で設置している「社会教育実習」の内容についてここに紹介したい。まず、実習先であるが、本学にMKC（名城公園キャンパス）が開校されて以降、それが名古屋市北区にキャンパスを置くことで、名古屋市の北生涯学習センターとのつながりができた。それを機に社会教育実習の実習先として、名古屋市の社会教育施設である「名古屋市北生涯学習センター」での実習を依頼している（それ以前は日進市）。実習は通年で設定しているが、主にセンターの後期講座への参与観察および参加実習を行ってきた。実習の計画及び実施方法として、まずセンター側から、学生が参加可能な講座の一覧が提示される。学生は自身の興味と学びたい内容や課題、他の授業との関連などを考慮し参加する講座を指定された複数回選択する。実習の事前学習として講座の分析に基づき各自がそれぞれの興味関心に応じた実習計画と実習課題について授業内での発表およびレポートとして教員に提出するなどの準備をして実習に臨んでいる。参考までにここで2019年度における実習参加可能講座を提示する。それらは表2に示した通り以下の5講座20日程であった。

表2

講座① [社会教育主事在]

〈講座名〉私のくらしにひと工夫！～お部屋がうるおう生涯学習～	
○ 第1回	11月12日(月) 9:00～13:00
(講座内容)	お部屋も心もうるおう収納術～どんなお部屋が夢ですか？～
(実習内容)	・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
○ 第2回	11月19日(月) 9:00～13:00
(講座内容)	空間がうるおう炭のインテリア～炭の力を利用しましょう～
(実習内容)	・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
(備 考)	受講生が工作を行い後片付けなどのためスーツ不可。
○ 第3回	12月10日(月) 9:00～13:00
(講座内容)	色のパワーで壁面がうるおう！～自分もお部屋もイメージアップ～
(実習内容)	・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど

社会教育主事新課程に向けた社会教育実習の内容分析と課題

○第4回 12月17日(月) 9:00～13:00
(講座内容) テーブルがうるおうひと工夫～ソープカービングでグレードアップ～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、アンケート回収、片づけなど
(備考) 受講生が工作を行い後片付けなどのためスーツ不可。

講座② [社会教育主事在]

<p>〈講座名〉(なごや学マスター講座) 黒川のロマン、伝えませんか?～黒川マスター養成講座～</p>
○第1回 10月23日(火) 12:30～16:30
(講座内容) 黒川・堀川の歴史と文化を探る
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
○第2回 10月30日(火) 12:30～16:30
(講座内容) 黒川・御用水と北区の関わり
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
○第3回 11月6日(火) 12:30～16:30
(講座内容)【現地学習】黒川の魅力を探る1～北清水橋から三階橋まで～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
(備考) 歩きやすい服装、歩きやすい靴、水筒、雨具(雨天時)。ロビー集合、現地解散
○第4回 11月27日(火) 12:30～16:30
(講座内容)【現地学習】黒川の魅力を探る2～北清水橋から朝日橋まで～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
(備考) 歩きやすい服装、歩きやすい靴、水筒、雨具(雨天時)。ロビー集合、現地解散
○第5回 12月4日(火) 12:30～16:30
(講座内容) 黒川・堀川的环境を考える～堀川1000人調査隊の取り組みから学ぶ～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
○第6回 12月18日(火) 12:30～16:30
(講座内容) 黒川のロマンを伝えませんか?
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、アンケート回収、片づけなど

講座③ [社会教育主事不在]

<p>〈講座名〉(親学関連講座) めだかひろば～生まれ!元気な1歳児～</p>
○第1回 10月17日(水) 9:00～12:30
(講座内容) はじめまして～一緒に遊ぼうね～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど

○第2回 10月31日(水) 9:00～12:30
(講座内容) 小麦粉粘土で遊ぼう～何ができるかな?～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
(備考) 動きやすい服装 (床に座ったりするのでスカート以外)
○第3回 11月14日(水) 9:00～12:30
(講座内容) おはなしの世界へ行ってみよう!～絵本っておもしろいね～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
(備考) 動きやすい服装 (床に座ったりするのでスカート以外)
○第4回 11月28日(水) 9:00～12:30
(講座内容) 音楽遊びや英語で楽しもう～親子で楽しくスキンシップ～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
(備考) 動きやすい服装 (床に座ったりするのでスカート以外)
○第5回 12月12日(水) 9:00～12:30
(講座内容) みんなでなかよく遊ぼう～これからもよろしくね～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、アンケート回収、片づけなど
(備考) 動きやすい服装 (床に座ったりするのでスカート以外)

講座④ [社会教育主事不在]

<p>〈講座名〉【北文化小劇場・北区役所地域力推進室連携講座】 〈なごや学〉ジャズの魅力を感じるまち「北区」</p>
○第1回 11月8日(木) 12:30～16:30
(講座内容)【公開講座】【現地学習】 北区をジャズで盛り上げる!～The Polar Jazz Orchestra 音楽監督によるトーク&ライブ～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
(備考) 会場：名古屋市青少年交流プラザユースクエア 動きやすい服装
○第2回 11月15日(木) 12:30～16:30
(講座内容) ビッグバンドの魅力～名古屋ジャズの系譜～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
○第3回 11月22日(木) 12:30～16:30
(講座内容) 北区で広がるジャズの輪～市民バンドの運営とイベント制作を通して～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、片づけなど
○第4回 11月29日(木) 12:30～16:30
(講座内容) 北区ジャズの街プロジェクト～ジャズの魅力でまちににぎわいを～
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、アンケート回収、片づけなど

講座⑤ [社会教育主事在]

<講座名>【人権問題特別講演会】 ハラスメントから見つめ直そう、自分のこと～相手の人権、気付いていますか？～
○12月8日(土) 12:30～16:30
(実習内容)・講座運営補助、会場設営、受付・資料配布、安全管理、アンケート回収、片づけなど

これらを概観すると、趣味的な講座をはじめとして名古屋市生涯学習センターの講座に特徴的な「なごや学マイスター講座」「なごや学講座」「親学講座」などが含まれている³⁾。また講演会形式の講座もある。実習生たちは、社会教育演習の授業であらかじめ名古屋市の生涯学習センターの講座について学び、分析し、その特徴的なあり方については理論的に理解している。その知識を持ったうえで実際の講座に関わることで、演習での学びの確認が可能となり、より実践的な知識および技能を身につけることができる効果的な実習になっているといえる。

一覧を見ると実習の内容項目はほぼ同じであるが、実際に学ぶ内容にはさまざまなことがらが含まれる。例えば講座①など座学ではない工作活動を含む講座もあれば、講座②のような屋外での現地学習も含まれる。また講座④など生涯学習センター以外の名古屋市における社会施設である名古屋市青少年交流プラザユースクエアでの現地学習もある。

ここで、先に分析した社会教育実習の目的に照らして実習内容を吟味してみたい。まず講座によって社会教育主事在のものと不在のものが存在していることがわかる。教科の目的である「社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ること」に関して、社会教育主事在の講座においては直接社会教育主事の行動を学ぶ機会となる。他方、社会教育主事不在の講座ではその、直接的ではないが講座企画段階での間接的な関わりを把握する機会ともなる。これらから、社会教育主事の職務としての講座企画段階での関わりと講座自体への参与という両面を体験的に学び、その総合的あり方を実感することが可能となる。また、実際の講座の会場設営などの準備段階から実施、実施段階における安全管理という任務、講座修了後の片付けなど実践的な活動を行うことが実習においてまさに実践的な学びとなっているといえよう。

3. 社会教育実習共通課題としての北生涯学習まつりへの参加

前節において社会教育実習として選択必修的に参加させていただいている講座とその内容およびそれらを、新たな社会教育主事養成課程で必修となる社会教育実習の目的との関

連から分析してみた。ここでは、さらに、本学において現行展開している社会教育実習で、その実習先としての名古屋市北生涯学習センター後期講座の日程中に毎年恒例で開催される「北生涯学習まつり」(以下、単に「まつり」と称する)への参加について紹介し、具体的な内容とそこでの実習生の学びについて取り上げたい。この「まつり」は長年にわたり毎年後期講座開催期間の秋の土曜日と日曜日の2日間の日程で終日開催され、生涯学習センターと住民をむすぶ恒例行事となっている。北生涯学習センターでの社会教育実習受け入れ以降毎年その準備と実施および後片付けにはすべての実習生が必修で参加するという要件で実習を計画し組み立てており、それが本学の社会教育実習の特色ともなってきた。したがってこの「まつり」における実習生の学びの様相を分析することには意義があると思われる。

今年度の日程と内容は以下のとおりである(表3)。

表3

日程・時間	要件	担当業務(実習内容)
10月25日(金) 13:00~17:00	まつり準備	イベント準備
10月26日(土) 9:00~17:00	まつり1日目	イベント運営補助
10月27日(日) 9:00~16:30	まつり2日目	イベント運営補助・イベント後片付け

その具体的な学びについては実習学生たちの提出課題である実習日誌の記述の事例から把握することが可能である(担当教員である筆者は実習課程のすべてやすべての講座について直接学生の学びをみることができない代わりに実習日誌の記述からそれらを把握し、評価を行っている)。以下わかりやすくそれらを確認するため表にまとめてみた(表4)。

表4

実習生Aさんの事例(以降ほぼ同様な実習内容等については一部割愛した。)

日程	実習日誌の記述(要点はゴシック体で示す)
25日	皆さん手分けされ作業が早く終わった。 館長さんや施設職員さんの指示出し がスムーズだったからだと思う。自主グループの方とフレンドリーに話されており 普段からの交流 がうかがえた。高齢者の方が楽しく準備されていた。館長がおっしゃっていた準備を通じて「 達成感を感じてもらおう 」というところに生涯学習の必要性・重要性があると感じた。人の少ないグループの手伝いが中心となったが、もう少し全体を見渡してお手伝いの声かけができればよかった。「手伝って」と言われることが案外少なかったのでやはり 自分から声をかけなければ と思った。

社会教育主事新課程に向けた社会教育実習の内容分析と課題

26日	実習内容としては来賓の方の接待（茶菓準備、コーヒー出し、食器洗い）、体育館ステージのPA（CD、マイク対応、ミキサーで音量調節、司会）、お客様への案内や声掛けなど。 子どもからお年寄りまで多くの方が来場されて楽しんでおられた。講座とは異なり発表の場となっている。気になったのは10代後半～20代くらいの若者世代の参加者があまりいなかったこと。
27日	実習内容としてはグルメの会の手伝い（芋カップケーキの芋切りから蒸しまで）、昨日同様体育館でのPA、お客様への案内や声掛け、展示をみる。後片付け（スピーカー、ミキサー、ケーブル類、CDプレイヤー、机・椅子等の片付け、壁や階段の掲示物外しなど）、社会教育主事さんのお話を聴く。昨日よりもスケジュールがハードだったが1日目よりスムーズにPAの仕事ができた。参加者への声掛けやおしゃべりも昨日よりできたことで、 一人ひとりの生き生きとした様子をより実感できた。実習生という立場だが区民の生の声を聴ける機会となり貴重だった。また、社会教育主事の近藤さんのお話から、社会教育主事が実際何の仕事をしているかについて具体的に伺うことができたことがありがたかった。
実習日誌の記述から把握される学びの要点	
<ul style="list-style-type: none"> ・「達成感を感じてもらおう」などねらいを設定した活動の必要性。 ・自主的、積極的なかわりの重要性。 ・子どもからお年寄りまで＝多様な学習主体の存在。 ・相対的な若者世代の参加の少なさへの気づき…今後参加を呼び掛ける重点を認識。 ・学習者の具体的様子を知る機会。 ・社会教育主事の仕事の具体像の断片の把握。 	

（実習生の実習日誌の記述をもとに筆者作成、学生名はアルファベットで代示）

実習生Bさんの事例

日程	実習日誌の記述（要点はゴシック体で示す）
25日	参加者支援における3Sと3Fを学んだ。 3Sとは声掛けとして「さすがですね」「すごいですね」「すばらしいです」の三つで、3Fとは「フェアプレー」「フレンドシップ」「ファイト」の三つである。それを通じて 楽しく参加してもらおう意図 があるとのこと、自分も意識したい。また、自分の祖父母にあたるような年齢の方々が元気よく準備をされていることを知った。「手伝うことはありますか」など自主的に行動することが重要だと思った。また机を運ぶ際など「いくつ運ぶ」「いくつ運んだ」など 状況を把握することの大切さ も学んだ。
26日	踊りを踊られた方をはじめ皆さんかなり練習をし今日の本番を迎えておられると感じた。司会として曲や名前の紹介などするにあたり漢字には 読み仮名をふるなど事前に確認 しておく必要があると思った。芋を切るのを手伝う際「 遅いのは誰でもできる。早くやるの 」という言葉が印象に残っている。すばやく動けるように努力したい。思ったより多くの子どもを見かけた。
27日	アナウンスはしっかりはきはきと話すことが重要だと感じた。早口だと手話通訳の人や筆記通訳をする人が大変となる。指示には従いつつも 指示待ちにならないよう自分で考えて行動する事 の大切さを学んだ。
実習日誌の記述から把握される学びの要点	
<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けの3S 3F など（現場で使用されている支援の具体的声掛け）を学ぶ。 ・事前準備と状況把握の重要性。 ・参加者からの具体的アドバイス（早くやる）をもらっている。 ・自主的、積極的行動の大切さ。 	

実習生Cさんの事例

日程	実習日誌の記述 (要点はゴシック体で示す)
25日	準備の準備として実習生にもわかりやすく仕事がやりやすいようにされていて、皆がすぐに仕事に取り掛かることができた。 職員の方々は皆に声をかけ積極的にコミュニケーションをとっていた。 自主グループの方々は皆さん手早く準備されており、声をかけるのが少し気が引けたが少しずつでもお手伝いすることができ、またそれに対して 「ありがとう」という言葉をいただけたことが嬉しかった。 何から何まで手伝うのではなくできないことを手伝うように留意する。
26日	芋ケーキを作るとき、マイスターの方が主導して作り方を教えており、 講座で学んだ方がその学びを活かしている様子 が伺えた。体育館に生涯学習相談のコーナーが設置され、多くの方が参加されていて これからの生涯学習の活動がこの「まつり」をきっかけに盛んになる のではないかと思った。親に連れられた子どもはいたが自分たち世代の大学生・高校生などが少ないのでそこへの広報が重要と感じた。発表では皆さんが学んだことを存分に発揮されており、その活動に関われたことが良かった。
27日	1日目より音響の 仕事に慣れスムーズに作業 ができた。休憩時間に自分でも展示を観ることができ、その際も参加者の方から声をかけていただけた。後片付けでは自分から率先して動くことができた。最後に 社会教育主事の近藤さんからお話を伺うことができた。
実習日誌の記述から把握される学びの要点	
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の必要性 ・「ありがとう」の言葉から社会教育の仕事へのやり甲斐。 ・マイスター講座における学びの継続性のあり方。 ・生涯学習活性化に向けた「まつり」という行事の効果と位置づけ。 ・実際に働いて「慣れる」ことの実感。 	

実習生Dさんの事例

日程	実習日誌の記述 (要点はゴシック体で示す)
25日	来館者の要望は笑顔で聞きつつわからないことがあっても代案を出す。高齢者の方々の 「自分たちでつくったお祭り」という気持ちを損なわない ようにお手伝いしすぎない。お祭りの準備作業を手伝っていて、多くの方が協力し合って机やいすを運び入れたりしている様子を見て 「みんなでつくるお祭り」としての在り方 を強く感じた。
26日	割愛
27日	講座に参加させていただき、グループの方々が大変楽しそうに折り紙の説明をされていた。まつりが 一年の集大成 であることを感じた。講座参加者には女性が多く、普段センターを利用する人の年齢層や性別などの特徴を知ることができた。展示やステージでの発表をすることがメインだが 「久しぶり」という声もきかれ、発表だけでなく交流の場としても機能している ことが伺えた。手話での対応もあり、 障がいのある方にも気軽に参加できる行事 であると思った。
実習日誌の記述から把握される学びの要点	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民主体の「まつり」のあり方。 ・社会教育施設における行事の位置づけ。 ・すべての市民（障がい者含む）に向けた行事としての対応。 	

社会教育主事新課程に向けた社会教育実習の内容分析と課題

実習生 E さんの事例

日程	実習日誌の記述（要点はゴシック体で示す）
25日	生涯学習センターのスローガンである「明るい口調やにこやかな表情での対応」を心がけ、 学びの場にふさわしい環境づくり に努めることが大切。全体の印象として高校のときの文化祭の準備に近いと感じた。もちろん参加者は高齢者の方が多いのだが、年齢の差を感じないくらいお元気で、 これこそがまさに生涯学習 であると感じた。
26日	とくに印象に残ったのは、午前に行われた「ビートルズを英語らしく歌おう」というなごやか市民教室自主グループの方々の発表であった。 世の中では正しさやクオリティや優位性ばかりが尊ばれる風潮があるなか 、こうして 楽しく音楽をする姿勢 に感銘を受けた。
27日	いろいろな展示を観て回り、そこのグループの人と交流し、話を弾ませることができた。さまざまなグループの人の 参加動機や過去の学習歴 などを知ることもできた。社会教育主事さんのお話で、 いろいろなことに興味を持ち、雑談力を身につけよう ということがあった。自分も雑談力を身につけ、参加者さんとの親睦を深めることが大切だ。
実習日誌の記述から把握される学びの要点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育のあり方としての環境醸成。 ・ 学校教育的学びと社会教育での学びの相違。 ・ 知識としてではなく実感としての生涯学習把握。 ・ 学習主体把握にとって重要な参加動機や学習歴の重要性。 ・ 社会教育職員に求められる能力（幅広い興味関心、雑談力）。 	

実習生 F さんの事例

日程	実習日誌の記述（要点はゴシック体で示す）
25日	割愛
26日	普段受付するような機会があまりないので、最初は少し戸惑ったが終わるころにはそれなりに対応できるようになった。また見回りをしていく中で、本当に学祭のような展示が多くみられ、 各々の団体の「北区愛」 が伝わってきた。
27日	まつりのために準備を行う人たちの大変さを体験して、より一層 運営したり補助したりする側の責任 を感じた。この3日間を通して何かと大変な部分もあったがまつりの発表の中にはいくつか自分の興味があるものもあり、楽しかった。 楽しいと思えたことも学びだ と思った。
実習日誌の記述から把握される学びの要点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「北区愛」の表現から、地域の拠点としてのセンターのあり方。 ・ 職員側の意識（責任）。 ・ 職員の側にも学びがあることの実感（楽しいと思えたこととこれこそが学びであるとの認識）。 	

実習生Gさんの事例

日程	実習日誌の記述 (要点はゴシック体で示す)
25日	割愛
26日	まつりの各ブースを見学し、受講者の方々とお話をした。 講座を始めたきっかけとして「現役をリタイアしたあとに何か打ち込むことをやろうと思って」と答える方が多かった。また参加者の方々はどなたもいきいきとしていて、楽しそうで、これを生きがいとしているような様子があった。日々ただ学習するだけではなく、日々の成果を発表する場としてまつりがあり、それが良い目標となって学習の効果を上げているように思えた。一日教室にも参加し折り紙でねずみを打つ屈足手話を学びながら耳の不自由な方々ともお話をした。どの講座も歴史が長いと感じた。
27日	割愛
実習日誌の記述から把握される学びの要点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 老後の生きがいづくりとしての生涯学習。 ・ 学習成果発表の重要性とそのために行事としてのまつりの位置づけ。 ・ 単発ではない継続的な学習の状況。 	

以上、それぞれの実習生が「まつり」の準備、実施、後片付けへの参加から多くのことを学び取っていることが把握される。とくに今後の社会教育実習に求められる能力としての「社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図る」目的に照らして、この社会教育施設である生涯学習センターの年中行事として何年にもわたって継続されている「まつり」への参加実習はかなり総合的かつ実践的な力量形成に関連するものであるといえるのではないだろうか。とくに実習生にとって参加され主体とされている市民の人々との直接の交流からの学びがかけがえのないものになっている。社会教育演習において理論的には学んでいたもののとくにまだ学校教育しか経験していない大学生の彼らにとって、実習での実践的な体験でより具体的なイメージを伴った社会教育施設での学びがあり、社会教育職員の仕事への理解に加えて、実習の総括として社会教育主事さんの講話をいただけたことがより一層その資格への動機づけとなったことは間違いのないであろう。

4. 社会教育士に求められる資質との関連から実習での学びの考察と今後の課題

ここでは、再度社会教育士に求められる資質との関連から、社会教育実習での学生の学びを考察し、来年度以降の新課程に向けた必修の社会教育実習および選択必修社会教育実習Ⅱに向けた課題を整理しておきたい。

2. でまとめたように、新課程でのすべての単位習得者に与えられる名称（資格ではな

い)としての「社会教育士」について「多様」「連携・協働」「地域」「コーディネート／ファシリテーション／プレゼンテーション」などのキーワードで示される資質が今後ますます求められることが確認された。それらに照らして、現行の社会教育実習の内容について吟味してみよう。

まず参加講座群の多様性との関連から、実習学生にはそれらへの参与観察および実際に講座に参加し関わることで多様な学習者を把握する機会があると思われる。加えて「まつり」に参加されているさまざまなグループやさまざまな年代の来訪市民の様子を把握することからも多様性に対する認識は獲得できたであろう。

次に「連携・協働」については、主に「まつり」の企画においてさまざまな主体やグループとの連携と準備段階から実施にいたるまでの協働の実践を体験的に学ぶことで具体的なスキルの一部を身につけることはできていると考える。また、参加講座④のように北文化小劇場・北区役所地域力推進室連携講座が設置されていることから、センター内だけでなく地域のさまざまな施設や主体との連携・協働が行われていること、およびその実際の連携・協働状況を学ぶ機会も存在している。同時に「地域」というキーワードについて、北区の施設、北区のグループということで地域を意識し地域に密着した講座のあり方を学ぶことができている。さらには「まつり」がセンターにおける最も身近な地域である北区を中心とした展開になっていることから、それをより一層意識することができたと推察される。例えばそれについては、実習生Fさんの実習日誌の「北区愛」の記述からも読み取ることができる。

最後に「コーディネート／ファシリテーション／プレゼンテーション」などのキーワードで示される資質についてである。これらの資質は新課程のいわば目玉とも目される、社会教育士として身につけるべき資質である。カタカナ語で示されるがゆえにやや抽象的にとらえられがちな能力ではあるが重要であることには間違いない。試みに筆者は、このような外来語表記を日本語に置き換えることでよりその内実をはっきりするのではないかと考えた。すなわちそれらは、「結びつけ、促し、表現する」ということになるだろう。「コーディネート／ファシリテーション」に当たる「結びつけ、促す」ことはすでに社会教育主事に求められ、かつ実践されてきた能力であり仕事であった。例えば講座の参加者同士を結び付ける、さまざまな主体やグループ同士を結び付ける、あるいは講座や行事への参加を促す、講座修了者の継続的な学びを促すなどは社会教育主事として最も重要な資質であり任務でありこれまでも行われてきている。現行の実習を通じてこれらの資質については

学生の学びの様相からその基礎を身につける機会が存在していたことは確認できた。

そうなると今後において吟味する必要があるのはプレゼンテーションに相当する「表現する」という資質であろう。とらえ方によれば、これまでににおいても講座を企画することを通じた「表現する」は実行されてきている。加えてここで、筆者個人の社会教育委員としての経験を紹介し社会教育主事に求められてきた資質としての「表現する」能力と考えられる具体像について提示してみたい。筆者は2019年度の日進市の社会教育委員に委嘱され、社会教育委員の会議に出席してきた。そこでは自治体社会教育行政の計画から実施状況に至る実態などについて、まさに「表現」＝「プレゼンテーション」する社会教育専門職員としての社会教育主事の姿をみることができた。現場での表現の大元において地域自治体社会教育計画の段階で求められる社会教育主事の資質としての「表現する」能力が発揮される場の一つとして社会教育委員会が存在するととらえることができた。

であれば、それらに加えて今後は社会教育士として何らかの表現活動を行うことが期待されているとも考えられる。ここではとらえ方として、先に2で分析した新設科目である社会教育経営論で養成されるべき能力としての「多様な主体と連携・協働するためのコーディネート能力やプレゼンテーション能力」というのが参考になるであろう。すなわち「連携・協働」するためのプレゼンテーション能力＝表現する能力が求められるのである。その連携・協働先としてはNPO、大学、企業などが掲げられており、公的社会教育の範囲にとどまらない主体との結びつきが考えられる。それらを結び付ける上で表現する＝プレゼンテーションする能力が求められるのであるが、これらについては社会教育実習そのもので養成することは難しい。その一端を施設での実践や社会教育主事さんの講話だけから学ぶことは現状の実習課題とはなっていない。それらについては、今後新課程における発展的課題となると考えられる。それをふまえ、新課程施行後は表現する＝プレゼンテーションする機会を選択必修での社会教育実習Ⅱに盛り込むなど何らかの方法で課題に含めていくことを検討していきたい。

おわりに

本稿では、社会教育主事養成課程改正に関わり1単位必修となる「社会教育実習」に向けて本学社会教育主事養成課程において現行必修で設定している社会教育実習について、主に養成課程における新たなカリキュラムの概要を把握したうえで、今後の実習必修化および選択必修としての実習に向けた課題を整理するため、社会教育士に求められる資質能

力との関連で実習における学生の学びを分析することを目的に論考をすすめてきた。それによって、現行依頼している名古屋市北区の北生涯学習センターでの後期講座への参加と後期講座開催日程中の恒例行事である「北生涯学習まつり」への参加を柱とする必修2単位の社会教育実習においても、新課程、とくに社会教育士に期待される能力の多くをカバーできていることが確認された。

他方、新課程において求められる資質のうちのプレゼンテーション能力については、現行の社会教育実習だけではカバーしきれず、今後それを含めた実習内容については必修の社会教育実習だけでなく選択必修の社会教育実習も視野に入れつつ課題を設定することを検討する必要があると把握された。MKCの存在からこれまで名古屋市北区の生涯学習センターでの実習を設定しているが、発展的な学習を想定する選択必修の社会教育実習Ⅱでは、学生たちが所属する学部のキャンパスのある日進市での多様な社会教育施設における実習を考えている。その計画および実施状況の報告分析などについては他日を期したい。

また、ここで、これまでも重視されてきた「連携・協働」の連携・協働先として掲げられたNPOや大学や企業などとのそのあり方と今後期待されるそれとの違いについては、近年（2018年）における文部科学省の組織改編との関係で考察する必要があると浮上してくる。この改編において1988年以降30年にわたって社会教育局に代わって設置された生涯学習局（2001年生涯学習政策局）が2018年10月に筆頭局としての「総合教育政策局」になり「生涯学習」の用語が消えた。さらに生涯学習どころか、社会教育課すら存在しない（地域学習推進課への置き換え）状況がある。この改編との関係で社会教育主事講習および養成課程の新課程への改編も行われることになるため、これまでのような単なる学習主体同士の連携・協働を超えた首長部局を含む福祉行政その他との幅広い連携・協働も視野に入れていく必要がある。そこにおいて社会教育の立場を他部局、他行政に伝えていくための資質としての表現する＝プレゼンテーション能力であると考えれば、現行の社会教育実習の課題を超えており、今後それも視野に入れつつ、それを必修の社会教育実習だけではなく、社会教育演習⁴⁾やその他新カリキュラムにおける新設2教科などとの関連で養成課題としていく必要があると感じる。それらについては他稿で検討していきたい。

注

1) <http://melmaga.mext.go.jp/DMN01UB0006w>

2) このうち、コーディネート機能については、平成10年9月の生涯学習審議会答申で既に「学習活動全般に関する企画・コーディネート機能といった役割」を求めている。

- 3) 名古屋市教育委員会生涯学習部生涯学習課「生涯学習センターが行う新たな講座・事業の展開について」平成28年3月参照 (www.suisin.city.nagoya.jp/cgi_data/.../info/.../H24.pdf)。
- 4) プレゼンテーション能力については社会教育演習の中で実践的な課題としてプレゼンテーションを学生に課している(詳しくは、榊原博美「社会教育演習での実践を通じた学生の学び—防災ゲーミング体験を活かした防災学習講座の企画—」『愛知学院大学教職支援センター年報』第1号、2019年6月、p. 73~p. 83を参照のこと)。